

# 江東区の埋蔵文化財

## 江東区内出土の泥面子

今回ご紹介するのは区内の遺跡等から出土した泥面子（面打）です。面打はもともと本物の銭を使った大人の遊びが起源のようです。その後、銭の代用として木の実（ムクロジ）や貝（キサゴ）などを使って子どもも遊ぶようになりました。江戸時代には土製で円盤状（直径 2～5cm）の面打が作られるようになり、片面には人物や動物、家紋、文字（漢字）などが型で押されました。『和漢三才図会』にある意銭（穴一）の絵のようにバラまいたものに当てたり、地面に掘った穴に目がけて投げ入れるなどいろいろな遊び方があったようです。

江戸（東京）周辺では武家屋敷の遺跡から面打が多く出土していることから、子どものほか大人が使っていたと考えられています。面打は江戸時代中期（18 世紀後半）から出現し、同後期（19 世紀前半）には多く作られたようです。明治初期には鉛や木の板のメンコが出現し、同中期には紙（ボール紙）のメンコに取って代わりました。

### 【参考文献】

安芸毬子「泥面子」『図説 江戸考古学研究事典』柏書房 平成 13 年

石神裕之「江戸を代表する玩具-泥面子」『事典 江戸の暮らしの考古学』吉川公文館 平成 25 年



千田遺跡 (4・10号遺構)



雲光院遺跡 (84b号遺構)

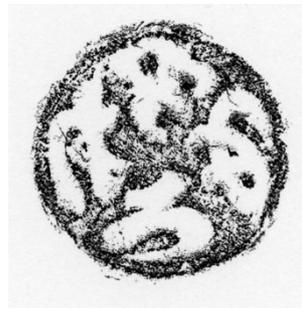


左: 石島18-5地点 (扇橋小学校)

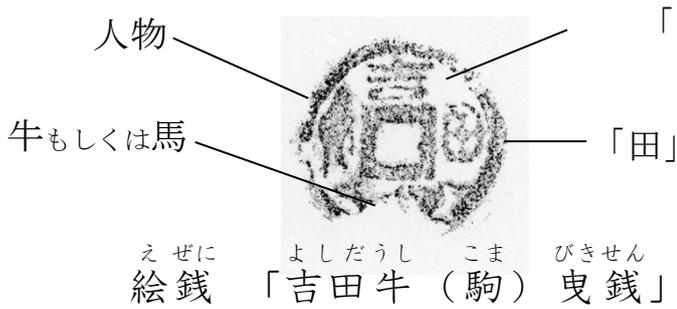
右: 北砂2-1地点



じゅうろくぎくもん  
十六菊文



“せ” “ろ” “め” “も”



しょうぎ こま おうしょう  
将棋の駒「王将」



ししがしら  
獅子頭?



まとい  
纏 (丸に“大”) + “小”



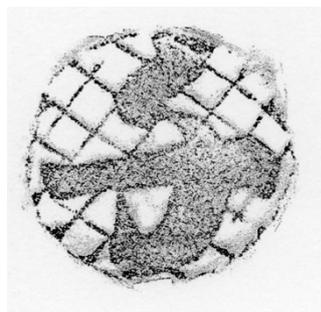
鳥



不明



不明



こうしもん  
格子文に“与”



菓むらで鳥を  
弓で射ようとする人物

## 千田遺跡出土資料

出土遺構：4号遺構（上段）・10号遺構（下段）

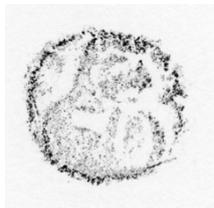
廃棄時期：江戸時代後期

※ 遺跡（千田<sup>せんだ</sup>22番地）は一橋徳川家<sup>ひとつばし</sup>抱屋敷<sup>かかえやしき</sup>の一部にあたる



“万” + 纏まとい（“一番”）

※ 江戸火消一番組のうちの「万組」をあらわす  
飯田町（現在の千代田区飯田橋 1・2 丁目あたり）を担当



だるま  
達磨



きつね  
狐



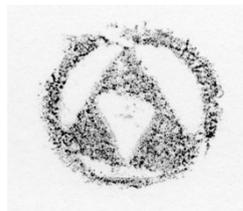
おに  
鬼

## 雲光院遺跡出土資料

出土遺構：84b 号遺構

廃棄時期：江戸時代後期～明治初頭

※ 遺跡（三好二丁目）は雲光院うんこういんの旧墓地にあたる



みつろうこもん  
三鱗文



えび まるもん  
海老の丸文

## 石島 18-5 地点（扇橋小学校）出土資料

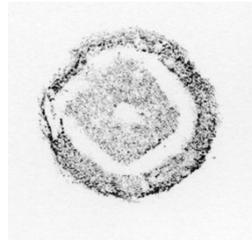
※ 工事の際の採集資料。出土地点は一橋徳川家抱屋敷ひとつばし かかえやしきの一部にあたる



うめばちもん  
梅鉢文



こうりんばいもん  
(光琳梅文)



ひしもん  
菱文



みますもん  
三柵文

## 北砂 2-1 地点出土資料

出土遺構：ごみ穴か？

廃棄時期：江戸時代後期か？



意  
錢

せにうち  
あないち

和名世邇宇知

俗云穴伊知

穴撃之訛乎

参考図 『和漢三才図会』にみえる意錢

正徳2年(1712)刊行

(国立国会図書館デジタルコレクション)